

愛知大学人文社会学研究所 2019 年度活動報告

愛知大学人文社会学研究所は、2019 年度の活動として以下を実施した。(1) 愛知大学人文社会学研究所機関誌『文學論叢』の発行、(2) プロジェクト・研究会の実施と研究活動費の助成、(3) 人文社会学研究所が主催するシンポジウムの開催。各活動の概要は次のとおりである。

(1) 愛知大学人文社会学研究所機関誌『文學論叢』の発行

『文學論叢』第 157 輯（全 64 頁、論説 2 編、研究ノート 1 編を所収）を 2020 年 2 月 20 日に発行し、国内 360 ケ所、海外 20 ケ所の各大学、研究機関および図書館に寄贈のうえ、愛知大学の学生にも広く配布した。また 2020 年 9 月より、愛知大学リポジトリにて公開した。

なお、第 153 輯以降の『文學論叢』には、論文の質の保証と向上を目指して設けた投稿要領・査読規程が適用されている。

(2) プロジェクト・研究会の実施と研究活動費の助成

所員を中心に組織されるプロジェクト・研究会として「国際英語」教育研究会、「東亜同文書院生の「大調査旅行」の足跡と東西言語文化接触理解の諸相」研究会を組織し、その研究プロジェクトを遂行するとともに、これにかかる研究活動費を助成要領に基づいて助成した。いずれのプロジェクト・研究会も 2 年間（2019 年度～2020 年度）の研究活動を前提としており、当該プロジェクト・研究会の概要と 2019 年度の活動は、以下のとおりである。

・「国際英語」教育研究会

- 1) 概要：現代国際英語専攻の学生の学ぶ意欲や意識の変化について調査を行い、国内で「国際英語」に取り組む研究者と交流を図り、調査結果を国際学会 ELF (English as a Lingua Franca) にて発表する。
- 2) 代表研究者：ローラ・リー・クサカ（短期大学部）
- 3) 共同研究者：アンソニー・ヤング（文学部）
エープリル・イーヴ・デイ（文学部）
ピーター・ライオンズ（文学部）
ダニエル・デヴォリン（文学部）

4) 2019 年度の活動：

- ・国内で「国際英語」に取り組む研究者を招聘してのフォーラム開催
 - テーマ：Contextualizing English as a Lingua Franca (ELF): Assumptions, Aspirations, and Affirmations (共通語としての英語 (English as a Lingua Franca) の文脈化 - 仮定、願望、肯定 -)
 - 開催日：2019 年 10 月 19 日
 - 会場：豊橋校舎 研究館 1 階 第 1-2 会議室
- ・アンケート等の聞き取り調査の実施

・「東亜同文書院生の「大調査旅行」の足跡と東西言語文化接触理解の諸相」研究会

- 1) 概要：戦前の東亜同文書院の「大調査旅行」の調査日誌『大旅行誌』のうち、調査が最も活発に行われた円熟期すなわち 1920 年代の足跡と現地の東西言語文化接触の各事象に関する記録に焦点を当て、(主要部分の)実像の解明を目指す。『大旅行誌』は将来的に日本のアジア進出を担った日本人青年層の“原体験”の記録として、戦前戦後にわたる日本のアジアとの関わりを捉えるための第一級の史料であるにもかかわらず、その全体像を提示した研究は皆無である。本研究では全容解明の端緒として円熟期の『大旅行誌』の足跡データベースを構築するとともに、その利点を活かして当時の日本知識青年の東西言語文化接触への理解について多角的な分析を進め、近代日本のアジア経験に関する研究に新たな知見を提供し、その進展に貢献することにある。

2) 代表研究者：塩山正純 (国際コミュニケーション学部)

3) 共同研究者：岩田晋典 (国際コミュニケーション学部)

加納 寛 (国際コミュニケーション学部)

4) 2019 年度の活動：

- ・現地調査 (期間：2020 年 2 月 15 日～18 日、場所：台湾)

(3) 人文社会学研究所が主催するシンポジウムの開催

人文社会学の基礎研究を推進するため、内外から講師を招聘し、シンポジウムを開催した。実施にあたっては、新聞社・市民館・高校・大学などにフライヤーを配布するなど事前広報を行い、一般公開した。シンポジウムのテーマは、以下のとおりである。

研究会活動報告

・シンポジウムのテーマ（開催日、会場、企画者）：

- ことばの詩、生活の詩、社会の詩－日常の中のポエティックス－（2019年6月1日、豊橋校舎 研究館1階 第1-2会議室、片岡邦好）

上記シンポジウムの報告書として、片岡邦好編『ことばの詩、生活の詩、社会の詩－日常の中のポエティックス－』（2020年2月20日、全85頁、各報告に基づく論考5編を所収）を印刷・発行した（2020年3月より愛知大学リポジトリにて公開）。

また、2018年度に開催されたワークショップの報告書として以下を印刷・発行した。

- ・小野賢一編『ヨーロッパ前近代の複合国家』（2020年2月20日、全46頁、各報告に基づく論考4編を所収）※2021年3月より愛知大学リポジトリにて公開予定